

2011年4月22日

SAAJ NEWS RELEASE

「金融商品会計基準(金融負債の分類及び測定) の見直しに関する検討状況の整理」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：稲野和利 野村アセットマネジメント取締役会議長)は、2011年2月25日(金)に公表された「金融商品会計基準(金融負債の分類及び測定)の見直しに関する検討状況の整理」(以下、本検討状況の整理)についての意見書を作成し、4月22日(金)に企業会計基準委員会(以下ASBJ)へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 金融商品は保有目的を勘案して評価すべきであり、とりわけ売買目的以外の金融負債の時価評価には反対してきた立場から、売買目的以外の金融負債を償却原価法で評価する本検討状況の整理を支持する。公正価値オプションを認める提案も、企業が資産・負債のマッチングを図る新たな手段を提供するものであり、国際財務報告基準(IFRS)とのコンバージェンスにも資するところから支持する。
- ✓ 本検討状況の整理は非金融商品以外の主契約としてリースや保険契約を想定しており、これらに組み込まれているデリバティブについても区分処理の判断基準を提供する。リースや保険契約に関する会計基準の中で当該判断基準を提供するよりも、本検討状況の整理の提案する会計基準(案)で包括的に提供の方が合理的と考える。
- ✓ 両論が併記されている公正価値オプションが適用された金融負債で、満期前に負債の消滅が認識された場合のリサイクリングについては、その他の包括利益累計額に認識された金額を純損益に認識する(リサイクルする)案を支持する。発生頻度を根拠にリサイクリングを認めないのは不適切であり、またリサイクリングを認めないと資本の部の構成要素区分に問題が生じるからである。
- ✓ 本検討状況の整理を「公表するにあたって、当委員会の議論では、リサイクリングについて、これを維持すべきという見解が多く示された。」とのことであり、本件についてはASBJからも国際会計基準審議会(IASB)へ積極的に働きかけていただきたい。

【添付資料】

「金融商品会計基準(金融負債の分類及び測定)の見直しに関する検討状況の整理」について

本件に関するお問い合わせは下記まで
公益社団法人 日本証券アナリスト協会
電話：03-3666-1577
担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞